



って歯の治療が受けられない患者、嘔吐反射が強くて歯科治療が困難な患者や、快適で安全な歯科治療を希望される患者をはじめ、インプラント手術などの小手術に使用されます。また、高血圧症・

歯科治療で患者をいちばん苦しめるのは、その痛みや不快感に対する不安ではないでしょうか。一般的に歯科治療では局所麻酔が使用されますが、「静脈内鎮静法」とは、精神安定薬や静脈麻酔薬などを点滴で投与す

四国健康七

徳島大学病院歯科麻酔科
北畑洋教授

ることによって、治療に対する恐怖心や痛みを軽減する方法です。

その目的はすばり快適さと安全性で、患者の不安や不快感を和らげ、アメニティ（便利さ・快適さ）の高い診療環境を提供します。患者はリラックスして治療時間を短く感じたり、場合によっては治療中の出来事を忘れてしまいます。

静脈内鎮静法は全身麻酔と違って処置中は意識があります。が、薬の作用によりウトウト、浅い眠りのような状態にすることで恐怖心や痛みをほとんど感じなくなるため、恐怖心が先立

歯科治療の恐怖心や痛み軽減「静脈内鎮静法」

糖尿病・心臓疾患などの内科的疾患をお持ちの患者は、歯科治療中に緊張や痛みで症状が悪化することがあります。このような患者も静脈内鎮静法により意識が保たれたまま、緊張がとれてリラックスした状態で快適に歯科治療を受けることができます。また、心電図、血圧計や血液中の酸素の取込み状態などをモニタリングしながら歯科治療を行いますので、処置中に体調が急変した場合でもすばりに対処でき、非常に高い安全性を確保できます。

歯科治療現場における歯科麻酔科医の取り組みは、まだまだ一般的に知られていません。専門医のもと十分なバックアップ態勢を整備した本院においては、昨年は年間200例の実績があります。高齢化や生活習慣病の増加にともなって、今後はますます静脈内鎮静法の必要性が高まり、歯科麻酔の必要性、有用性を実感し、機会が増えること